

## 岐阜県不破郡関ヶ原町

### 今須方言の比喩語について

江 端 義夫

#### はじめに

1. 調査対象地：関ヶ原町は、伊吹山地と鈴鹿山地とに挟まれた森林地帯で、古来、交通や軍事の要衝と見なされてきた所である。古代には不破の関が置かれ、近世には、中仙道の宿場町として、今須宿と関ヶ原宿とが置かれた。関ヶ原の人口は9798人（昭和63年3月31日）で、しだいに、減少傾向にある。
2. 調査年月日時：1993年2月28日午前9時40分～12時15分
3. 話者：中野 博 大正15年10月25日生（66歳）  
中野絹代 昭和3年12月23日生（64歳）  
松井永太 大正6年9月29日生（75歳）  
松井久子 大正14年4月5日生（67歳）
4. 調査者・調査場所：江端 義夫、中野 博宅の応接間。
5. 調査方法・調査時の様子：調査票に基づく質問調査。「方言資料叢刊」1～3号共に、中野博宅で、お世話になり、ご懇情を賜った。
6. 表記法：語相当と見なされる語形について、品詞名を記した。新古、盛稀、使用年層、品位などについての情報は、最小限に留めた。「」は話者の発言であり、< >は筆者の説明である。①②は、事象の回答順を示す。「～の人」とある項目に「～のさま(君)」の回答がある。

#### I 《自然現象》

1. 日照り雨 キツネノ ヨメイリ (狐鳴り) <名> 盛「日照り雨とは言わない。」
2. 入道雲 ① ニューダーグモ (人霧) <名> 盛 ② カミナリグモ (霧) <名> 稀 「入道雲の出た後に雷が鳴る。臍をとられると言って、蚊帳の中に逃げた。」
3. 旋風 ① コガラシノカゼ (颯) <名> ② コガラシ (颯) <名> ○ コガラシガ フクデ カナン チー。(颯吹かふりまわぬる。) ③ マエカゼ (颯) <名> <しばらく考えた末の回答>
4. 霜柱 シモバシラ (霜柱) <名> 「これしか言い方が無い。」
5. つらら ツララ (つらら) <名> 「この言い方だけ」
6. 北斗七星 ホクトシチセー (斜柱) <名> 「これ以外に言い方が無い。」
7. 昂 キラキラボシ (昴星) <名> <昂か金星かの区別を吟味し得ていない。>
8. 流れ星 ナガレボシ (流星) <名> 「流れ星を見ると幸せが来るとか、流れ星を見た時に頬を撫でると、顔が奇麗になるとかと言われて育った。」



IV 《性向》

32. 熱しやすく冷めやすい人 ネツシヤスク サメヤスイ ヒト(熱易く冷め易い)
33. あわてん坊 オッチヨコチヨイ(おちよこちい、あわてん坊) <名>
34. 動作の鈍い人 ①ノロマ(のろま) <形動> ②スロー(しろ、ゆくり) <形動> 新
35. 嘘つき ①オーバーモノ(おほい、over者) <名> 新 ②オーボラフキ(おほらつき) <名> 稀 ③ホラ  
き(ほらつき) <名> 盛 ④オープロシキ(おほり) <名> 盛
36. ほらふき オープロシキ(おほり) <名> 盛
37. おしゃべり ①ハナシズキ(はなしづき) <形動> ②ヨク シャベル ヒト(よくしゃべる人) ③オシャベ  
(おしゃべ) <名> 盛
38. 冗談言い ①ヒョーキモン(ひょうきん) <名> 盛 ②ヒョーキ(ひょうきん) <名> 稀 ○ヒョーキ  
ンナ コトバッカ イッテ ワラワシトル。(ひょうきんなことばかり言っている。)
39. 口先だけの人 ①オジョーズモン(おしよず) <名> 盛 ②オセジノ ジョーズナ ヒト(おせじの主人)  
③オベンチャラモン(おべんぢら) <名> 「ええことばかり言う人」  
\*クチサキバッカヤ 口先ばかりだ <その人の性状を言い表したもの>
40. とんちんかんなことを言う人 <人そのものを表す語ではなく、以下は人の性状の言い方>  
①マトモナ ニンゲンヤ ナイ ナ。(まとも人間ではないな。) ②チヨット タラン。(少し足りない。)  
③チヨット ポケトル。(外れている。)
41. のらりくらり煮えきらない人 ①グズ(ぐず) <名> ②グズベ(ぐずべ) <名> 「②のほうが①よりも  
も程度が著しい。」
42. 怒りっぽい人 カンシャクモチ(かんしゃくもち) <名> ○ヒドー オゴリオル ナー。(ひどく怒っている。)  
癩癩持ちの動作。」
43. 気むらな人 オテンキモン(おてんき) <名> 「天気を気分の変わり易いことにたとえた。」
44. 泣き虫 ナキムシ(なきむし) <名>
45. おてんば娘 ①チャッカリモン(ちっかり) <名> 盛 「はきはきして活発な女の子。」 ②オトゴ  
マサリ(おとし) <名> 盛 「自分の意思を貫き通す女の子。」
46. 腕白坊主 ①ヤンチャボー(やんぢやう) <名> ②ドヤンチャ(おどやんぢやう) <形動> 「②は言い放つ時  
の言葉。」
47. 出しゃばり デシャバリ(でしゃばり)
48. どこへでも顔を出す人 ①デベソ(でべそ) <名> 盛 ②デズギ(でずぎ) <形動> 盛 「①②共によく使  
う。」
49. 家にこもって外出しない人 ①デブショー(でぶしょう) <形動> ②ヒッコミジアン(ひっこみじあん) <形動>  
><①②共に性状を表す言い方しか得られなかった。>
50. 小心者 ①ヒッコミジアン(ひっこみじあん) <形動> ②キガ コマカエ (きがこまかえ) <形動>
51. 内弁慶 ①ウチベンケー(うちべんけい) <名> ②ウチスポマリ(うちすぼまり) <名>

52. 人づきあいをしない人、社交性のない人 ①カワリモン(勤め者) <名> ②ケチンボー(ぢんぼう) <名> 「人付き合いをすれば、おのづから金がかかる。しかし人付き合いをしなければお金も要らないから。」
53. 妻に対して頭の上がらない男 ヨーシ(藪) <名> 盛  
\*シリニ ヒカレル 臂に敷かれる 稀
54. けち ①ケチンボー (ぢんぼう) <名> ②キタナエー(涸い) <形> ③ドギタナエー(妬い), <形>  
④ドケチ(妬ぢんぼう) <名>
55. 欲張り ①ドヌツスト(嫁人) <名> ②ドヨクフカ(嫁送) <形動> <程度の著しさを強調するの接頭辞の「ド」が付く。

## V 《食生活》

56. 大食漢 オーメシクライ(大喰い) <名>
57. ぼたもち トナリシラズ(餅が) <名> 「餅を作る時に、オト センデ(音ないが)」  
\*バツバ 「蓬の餅で、真ん中に餡の入ったもの。」 <由来不明>
58. 砂糖味が薄い サトヤガ トーイ(餅短焼い、餅が薄い) ○チヨット キヨーノ ゴチソー サトヤガ トーイケド イテ。(ちよと、今日の身は、餅短焼い(足りぬ)ほど、と云って。)
59. 塩味が薄い ミズクサイ(水か) 「付き合いの悪い人にも言う。」 ○アンマリ ツキアイ セン シトア アノ シトワ ミズクサイ ヨ。シヨーガ カエン ネヤ ユータリ オシオヤ ショーユー ヨー カワハラノ ノヤ ユーテ ヨー ユワハツタ。(あまり付き合いもない人は、あの人水かさいよ。塩が買えないのだと言ったり、お塩や醤油を買いなさいのだと言ったり、よく先代が言いました。) <提喻か>
60. 大酒飲み ①ジャー(壺) <名> ○アノ ヒト ジャー ヤ。(あの人は大酒飲みのうけかただ。) ②ソコナシ(酔い) <名>
61. 酒に酔ってくだをまく サケグセ ワルイ(酔が酔い)
62. 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま アコーナル(顔赤くなる)

## VI 《動作・様態》

63. 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま ①オメクソ(あがって、顔が赤い女の子) <名> ②オジクソ(あがって、顔が赤い男の子) <名> 「赤面することをオメルと言う。」
64. どしゃぶりの雨 ドシャブリ(どしゃぶりの雨) <名>
65. ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま ①ビシヨヌレ(びしょ濡れ) <名> 盛 ②ズブヌレ(ずぶ濡れ) <名> 盛 ③オシャカサン(お洒さん) <名> 稀 ○オシャカサンワ アマチャ アタマカラカケルデショー。(お洒さんとは、4月8日に甘藷を煎から掛るでしよう。) <傘を持ってなくて、濡れて帰るような時には、次のように言うとのこと> ○オシャカサンデ カエル ワ。(ずぶ濡れのお洒さん帰るわ。)
66. 服装がだらしないさま ①ダラシナイ(だらしい) <形> 盛 ②ハチケル(だらしくける) <動> 稀 「裸体のことをハチベー(素っ裸)と言う。」

67. 髭がのび放題なさま ①ヒゲ モザモザヤ (髭がのび放題) ②アショーヒゲ(不髭) <名>盛
68. 厚化粧をしている人 ①シロカベンテン ヌツテル(白粉を塗っている) <白壁と弁天と塗っているとの三つの話を重ねかけたことば> ②シャクシニヨライノ シロカベ(背陰の壁)<由来は不明だが、白粉で厚化粧した姿をこともあろうに薬師如来でなくて、杓子如来にもじるとは、揶揄好きなことであるよ。>
69. 背丈の高い人 無回答
70. 出びたい ①デコチン(でんちん)<名> ②オデコ(おでこ) <名>盛
71. 汗がひたいから流れ落ちる アセカ アメ アラレ(汗が顔のよう) 盛 ○アセガ アメ アラレノ ゴトク アセガ デル。(汗顔のよう、汗流る。)
72. 目を丸くする ①メー ムイタ(目撃) 盛 ②ビククラ シタ(びっくり) 盛
73. 口をとがらす フクレル (恥) <動>
74. 焦げ臭いにおい ①コゲクサイ(臭い)<くさい匂いの総称のようだ> ②キナクサイ(臭い、臭い) 厨子の臭い(臭い) 取調。(臭い) ③イヤナ ニオイ(いや臭い、臭いなどの臭い)
75. 遠回り(を) トーマーリスル(廻る) <動> ○イソガバ マーレデ トーマーリシテイク。(急いで、廻りをしていく。)
76. 末っ子 無回答
77. 一生懸命頑張る ①セーガ デル(頑張る) <動> ○オセーガ デマス。(頑張る。)<挨拶> ②キバル(堪える) <動> ○オキバリヤス。(頑張る。)<労働のねぎらいの挨拶>

## まとめ

- 「ずぶ濡れ」を「オシャカサン」、「厚化粧をしている人」を「シロカベンテン ヌツテル、シャクシニヨライノ シロカベ」トいうように諷刺に仕立てて、「洒落」や「滑稽」を共有しようとする心理が見られる。また、これは、日常の平凡さに起伏を持たせ、嗜めたり振り返らせたりする意味をも持たされていたに相違ない。
- 比喩とは、生活の俗に居て、その地空を飛び越えて別次元の妙に遊ぶ楽しみに立脚している。したがって、「ほらふき」を「オープロシキ」、「大酒飲み」を「ジャー(乾)」と言ったりして人を「もの」に例えるのは、ユーモアであると同時に、生活の知恵でもあろう。直接に非難するのが憚られる時には、相手への当たりを和らげる為に、比喩は格好の潤滑油となる。
- 「動作の鈍い人」のことを、S I O W(遅い)と回答された。驚いた。方言においても、英語そのまま、取り入れるという、この時代の気風が現れているのである。

(えばた よしお 広島大学教育学部)